

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-90C	12-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Moderate Alcohol Consumption and Breast Cancer in Women: From Epidemiology to Mechanisms and Interventions. 女性における適度の飲酒と乳がん：疫学からメカニズム、介入研究まで		
執筆者		
Brooks PJ, Zakhari S.		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2013 Jan;37(1):23-30.		
キーワード		
乳がん、アルコール代謝、疫学、メカニズム		
要 旨		
目的： 疫学研究では、適度の飲酒による女性の乳がんリスク上昇が報告されている。この関連のメカニズムを理解することは、女性の健康と乳がん予防を考える上で重要である。本コメンタリーでは、適度の飲酒と乳がんリスクに関する最近の疫学研究にフォーカスをあて、ヒトの発がん性についての最新のメカニズム理解の枠組みの中でその結果を検討する。		
結果： この分析は、アルコールが弱い累積的な発がん物質として働くこと、そして腫瘍プロモーターとなるかもしれないという仮説を支持した。我々はこれらのメカニズムがアルコール関連乳がんの予防や治療にどう適応されるかを考察し、将来の研究についての考えを示した。適度の飲酒は循環器疾患予防への効果や、最近では健康的加齢との関連が指摘されてきた。したがって、適度の飲酒がどのように乳がんリスクに影響するかをよりよく理解することは、女性が様々な人生のステージにおいて総合的に健康を維持するために、飲酒の危険と利益を秤にかけて自己決定することを可能にする。そのようなメカニズム面での情報は、アルコール関連乳がん死亡率低下のための関連する臨床的介入の発展の上でも重要である。		